

日中経済交流研究会新聞

2017年9月 日中経済交流研究会例会報告

商機は環境問題にあり！

～中国でも同友会理念を広げる～

東洋製鉄株式会社 専務取締役 音頭 良紀 氏

音頭さんの会社は建設機械、ショベルカーやフォークリフト用のカウンターウェイトを製造しているメーカーです。中国には2013年に江蘇省丹陽市に進出されました。日本企業の進出時期としては早くはありませんが客先の要請もあり決断されたそうです。代表（総経理）として立ち上げからかかわってきた音頭さんに、現地での様子や経緯そして展望について赤裸々に語っていただきました。



音頭 良紀 氏

進出と操業開始

2012年、進出決定後に蘇州の金融機関と進出場所の選定にかかりましたが、さまざまな問題で蘇州など大都市付近では塗装作業の環境ライセンスが取得できず、次第に郊外の都市に対象が移りようやく丹陽市での許可が出て進出場所が決まりました。

建築許可が下りたのち工場建設に着手しますが、日本ではおおよそ想像もつかないようなトラブルが続出します。しかしその都度対処していき何とか開業に漕ぎつけます。ところが運悪くも市場は建設不況の時期に入り、客先には「既存の外注先に見られたらまずいからあいさつにもこないでくれ」と通告され新規営業もできない始末。懸命に他の仕事を模索しますがローカル企業との価格差は歴然で受注もなく操業できないという最悪のスタートとなってしまいます。

その後は日本向けの生産を行うことにし、また不況からも段階的に回復してきたこともあり徐々に客先からの注文も出てきます。現在でも生産能力からするとまだまだ仕事は足りませんが、今後はある程度めどが立つ状態になりつつあるということです。

経営と労務管理と人脈づくり

中国では経営にあたっては右腕になる中国人パートナーが必要だと同友会仲間から教わり、日本名古屋工場では8年間勤務した中国人を副総経理にして社員の管理を任されています。

その彼を中心に経営理念を作成し日本と同じように社員をパートナー、家族のように接するようにし、人間関係を築いているそうです。そのおかげか、離職率が高いといわれる中国ですが、音頭さんの会社では比較的退職する社員はそう多くはないということです。

また中国では、日本とは違い行政組織と何かにつけて不可避的につながりを持たざるを得ない事情があります。音頭さんはそんな行政、市当局の担当者に対しても役職などに配慮をします（階級や細かい組織内の人間関係など）。また、一緒に会食するだけではなく卓球やバドミントンなどプライベートを通じて仲良くなるなど慎重にアプローチし、常に近い距離を保ちトラブルを未然に防いでいます。

今後の展望

「政府も地方も本腰をいれて環境問題に取り組んでおり企業への指導も厳しくなっています。環境対策を日本で実践していることが確実に強みになります」と音頭さんは力説されます。

「中国事業の目標は日本の本体（日本の親会社）を上回る規模にすることです」と宣言された音頭さん。とてもビッグなビジョンでそれをめざして今後当然さまざまな問題や超えられそうにない壁にも遭遇すると予想しますが、今の音頭さんの地元に合った地道な人間尊重の経営を継続すれば必ずや実現できるのではないかと期待できる報告でした。

まとめ 坂本造機株式会社 取締役会長 坂本 進